

震災からの復興活動に取り組むリーダーを、短期・中期・長期の3つのフェーズで支援します

震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders - Relieve, rebuild and re-start Japan

経過報告レポート (2011.7.11-8.11)

1 コミュニティの再生、産業復興を担うプロジェクトへの支援を拡大

「震災復興リーダー支援プロジェクト」のスタートから約5ヶ月。当初は、被災者支援プロジェクト「つなプロ」への参画をはじめとして、救援活動に取り組むリーダーへの助成など緊急フェーズに対応した支援活動を行ってきましたが、被災地の暮らしが仮設住宅に移行する中、それらの活動は収束、あるいは地元への移管の段階を迎えています。

それに伴い、地域コミュニティの再生・産業の復興に向けたプロジェクトへの中長期的な支援のため、多様な「右腕」のリクルーティング、支援対象プロジェクトの拡大に取り組んでいます。

①緊急・短期:被災者支援
(震災弱者支援のためのコーディネート機能の確立)

②短・中・長期:被災地の復興に向けた事業・プロジェクトに取り組むリーダーの支援
(リーダーを支える「右腕」となる若手人材を派遣)

③中・長期:新たな震災復興リーダーの育成・輩出
(産業再生・地域再生を担う新たな起業家の支援)

2 右腕派遣事業復興への参画を志す若者が続々とエントリー

7月6日に開催した「キックオフフォーラム&マッチングフェア」以降、休学や休職・退職といった厳しい条件にも関わらず、40名近くの若者から「右腕」へのエントリーが寄せられました。多くはフェアに参加し、会場で説明を受けた方たちですが、WEBサイト「みちのく仕事」を見たことをきっかけに応募してきた方も見受けられるようになってきました。

8月11日までの時点で、このうち20名のマッチングが成立、右腕や短期のプロジェクトスタッフとして、活動をスタートさせています。(8月11日時点で、累計48名の「右腕」を派遣)

□参画から2週間で「部長」に

大手コンビニチェーンを退職し、7月下旬から「東北 Roku プ

ロジェクト」に右腕として参画している藤澤明弘氏(24歳)[写真]。震災前日に仙台港近くで催しを行っており、一日違いで被害を免れたということ、勤務地・山形での被災経験、学生時代を過ごした宮城県への愛着、それらのことから、震災復興に対して何かできないかとの思いを抱き、右腕にエントリーしました。

藤澤氏が携わる「東北 Roku プロジェクト」では、農業の六次産業化とレジャー化をテーマに、畑・野菜加工工場・蕎麦屋・パン屋などからなる複合施設の開設を進めています[イメージ図:下]。壊滅的な打撃を受けた地域の産業の復興と、雇用の創出を目指し、オープン当初の段階で障がい者・一般あわせて40名の雇用を予定しています。

このプロジェクトの中で、藤澤氏は、流通業の知識、コンビニ店長としての経験をもとに、参画間もないながらも部長としてパン屋の立ち上げ・運営を担うことが決まっています。「すごくやりがいを感じるし、それはプレッシャーにもなるがやる気の原動力にもなる」と語ってくれました。



□看護専門職としての学びのため、休学して右腕に

右腕の応募者の中には、復興への寄与を志して仕事を辞め、右腕としてリターン、1ターンの道を選ぶ社会人に加え、休学をして数カ月から1年という時間を被災地での活動に投じることを決意した学生もいます。

8月半ばから「地域看護・地域福祉 後方支援プロジェクト」に参画予定の千葉大学2年生・塚田祐子氏(20歳)[写真]は、「つなプロ」の第2期メンバーとして避難所を回り、被災地で活躍する看護師の方々に接する中で、「看護学生として自分も現場の役に立ちたい、休学してでも災害時や復興時の医療関係現場の経験を積んでみたい」と考え、右腕として1年間活動に従事することを決意しました。

学部の中ではこれまでにあまり休学例がなく、周りの友人たちからは驚きを持って迎えられたそうです。



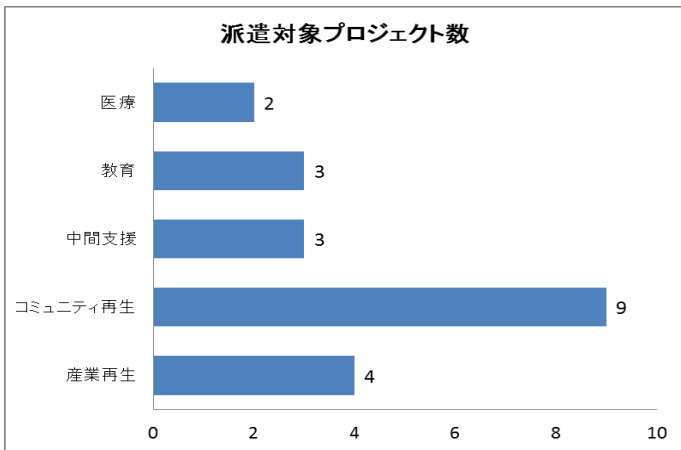
来年の活動明けの夏休みには、もともと目指していた国際医療の分野で、ケニアの保健行政のプログラムに参加することが決まっている塚田さん。右腕としての経験やこれからの学びを通して、「自分が一人前になるまでに世界の状況は変わっていくと思うが、看護専門職であるという自信を持てるスキルを身につけ、必要とされることを届けられる人材になりたい」と力強く話してくれました。

□「右腕派遣事業」今後の取り組み

現在の右腕派遣対象プロジェクト数は 21 となっています。個別説明会などを通じて、まだ右腕の定数が埋まっていないプロジェクトへのマッチングを進めていくとともに、地域の復興に向けて、より多くの産業再生・創生やコミュニティ再生のプロジェクトを支援できるよう取り組んでいきます。

10 月初旬には、産業復興に取り組むプロジェクトを中心とした第 2 回目マッチングフェアを開催する予定です。

また、右腕派遣に加え、8 月～10 月にかけては、主に学生を対象とした短期のプロジェクトスタッフの派遣も実施し、各プロジェクトの基盤整備や仕組みづくりを支援していきます。



られました [写真]。また、ネットワーキングの時間には、具体的な連携や、プロボノとしての事業への参画の話がまとまるなど、プロジェクトの前進が促進される場となりました。

参加した両リーダーからは、

○様々な方から、様々な観点でコメントを頂き、事業内容について再度考えるきっかけになりました。その後、継続してサポートして下さっている方もいらっしやって、とても感謝しています。頂いたアドバイスを、仮設住宅に入って自分自身が持った実感としての問題の両方について、真剣に検討しながら、つぎのステップに進みたいと思います。有意義な場を、ありがとうございました。(鹿島氏)

○参加者から、様々な指摘を頂けた。MAKOTO の特徴は「ヒューマンキャピタル」という事ではないかと指摘を受け、自らの強みを客観視することができた。また、「ファンドのガバナンスをどう行うのか」という指摘は非常に重要で、今後の課題ととらえている。また、参加の様々な方との連携可能性ができた。(竹井氏)

という感想をいただきました。

震災復興リーダー支援プロジェクトの対象が、復興を担う中長期的な事業へとシフトしていることを踏まえ、今後は、ETIC. に繋がる専門家人材との連携の場づくりや、その方々の持つナレッジやノウハウの提供を通じた支援にも注力していきます。



□250 名が集った真夏の「C a f e」

ETIC. が、社会の課題に事業でチャレンジしてゆく人たちが集う真夏のギャザリングとして、99 年にスタートさせた「Cafe "Creative Action For the Earth"」。

第 13 回として 8 月 6 日に開催した今年の「Cafe」では、3.11 後の世界に、向き合い、何を描いていくかを参加者とともに考え、動き出す場とすべく、「復興に賭ける人たちの挑戦～3.11 からの復興、未来づくりに挑む方々と語る～」とのテーマを掲げました。

震災復興リーダー支援プロジェクトの支援・連携先である東北 Roku プロジェクトの島田昌幸氏（株式会社ファミリア代表取締役）、カキ・ホタテ養殖復興プロジェクトの立花貴氏（一般社団法人 Sweet Treat311 代表理事）をはじめとして、3.11 後、被災地の救援活動や地域の復興、新たな産業基盤の創造のためにいち早くアクションを起こした、梅澤高明氏（A. T. カーニー日本代表）や荒井優氏（ソフトバンク株式会社社長室／公益財団法人東日本大震災復興支援財団 専務理事）など、NPO や民間団体、企業、行政など、様々な分野の 12 名のリーダーが、その行動にかける思いやビジョンを語りました。



(参考)「Cafe」と ETIC. のストーリー

➤ <http://www.etic.or.jp/cafes13th/story.html>

3 イベントレポート (2011. 7. 11-8. 11)

震災復興リーダー支援プロジェクトでは、右腕派遣先プロジェクトの後方支援などを目的に、各種イベントも開催していきます。

□「緊急！戦略ミーティング」

8 月 6 日（土）、日本財団ビルにおいて、「緊急！戦略ミーティング＆「右腕」マッチング説明会 ～リーダーとともに考える、復興への戦略と私たちの関わり方～」を開催しました。

被災地でのコミュニティバスの運行事業を起点としてコミュニティ再生に取り組んでいる「ぐるぐる応援団」の鹿島美織氏、被災地に強い雇用を作り出すべく、起業・第二創業支援プラットフォームの創造に取り組む「一般社団法人 MAKOTO」の竹井智宏氏の 2 人の復興リーダーをお招きし、参加者とともにプロジェクトの戦略を磨き上げていくとともに、参画・連携希望者の方々とネットワークを築く場として企画しました。

当日は、それぞれのリーダーが取り組むテーマや関連分野の専門家を含め 30 名ほどの参加があり、2 テーブルに分かれ、プロジェクトの戦略や事業内容について、熱心な意見交換が繰り広げ

□医療・看護支援ネットワークミーティング

7月29日(金)、ETIC セミナールームにおいて、「東日本大震災復興支援企画『医療・看護支援ネットワークミーティング』～被災地の今を知り、高齢者のくらしと健康をどう支えるかを考える～」を開催しました。

もともと平均高齢化率が30%近い状況の中で、震災により多くの医療機関、診療所が失われ、健康に対する不安が増大している被災地。その中で、地域の医療再生サポート、医療・看護にかかわるコミュニティサポートを行ってきた医師の林健太郎氏、全国訪問ボランティアナースの会「キャンナス」理事の河野良雄氏をスピーカーとしてお招きしました。

河野氏からは「地域の看護師・介護士とともに、医療・介護を市民セクターとしてどう支えていくべきか」、林氏からは「震災直後に地域の医療はどのように変化しどのようなサポートが必要になったか、そして今後、被災地で必要な医療サポートについて」というテーマでそれぞれお話しいただくとともに、参加者間の情報交換、ネットワーキングを通して、専門家以外の人々がどう関わってゆけるのかを議論しました。

□第1回震災復興勉強会

8月11日、ETIC セミナールームにおいて、ETIC インターン生&OB/OG 向けのイベントとして、『第1回 震災復興勉強会』～震災直後から現在、そして今後～を開催しました。この勉強会は、学生時代に長期実践型のインターンシップを経験した意欲的な若者同士が、震災復興とこれからの日本について考えていくために、まずは「知る」ことから始めるべく企画されたものです。

今回は、「つなプロ」現地本部長として、避難所における「特別な支援が必要な被災者」のニーズのアセスメントと、支援団体や物資とのマッチング活動をマネジメントしてきた佐野哲史氏からお話を伺いました。

東日本大震災前に従事されていた新潟県中越沖地震の被災地支援とその後の地域活性化の取り組みに始まり、今回の震災直後の避難所や被災地の様子、仮設住宅への移転が進む中での活動の在り方の変化、今後の展望などを語っていただきました。

質疑応答[写真]では、今後の災害に向けて「つなプロ」事業のアーカイブ作成の提起がなされたり、デイサービス関係者の質問から現地での事業連携の可能性が生まれるなど、たんなる「勉強会」に留まらず、初回からいくつものアクションの芽が生まれる場となりました。



4 震災復興リーダー支援プロジェクトへのマスメディアの関心高まる

「震災復興リーダー支援プロジェクト」の支援の枠組み、そして、実際にそれを活用して「右腕」を志し、活躍している若者たちに対して、マスメディアからの関心も高まっています。

8月3日、NHKの首都圏ネットワークにおいて、「被災地支援 現地に移り住む若者たち」として6分間の特集が組まれ、ETIC 代表理事・宮城治男へのインタビューや前述の東北 Roku プロジェ

クト・藤澤明弘氏の現地での取り組みなどが放映されました。

新聞でも、7月18日(月)の日本経済新聞・地域欄において「出でよ!地域のリーダー NPOや大学、復興を支援」として紹介されたのははじめ、「震災復興リーダー支援プロジェクト」の取り組みや右腕人材に対する、大手新聞各紙やテレビ局等からの取材や問い合わせが増加しています。

適切かつ積極的な情報提供・発信を通じて、継続的な支援の有用さや、各プロジェクトの価値を広めてまいります。

5 ご支援・ご寄付等の状況報告

現在、国内外の個人・団体・企業の皆様より、総額81,946,194円のご寄付をいただいております。この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。

ETIC は「震災復興リーダー支援プロジェクト」の推進にあたり、信頼資本財団と共同で「震災復興リーダー支援基金」を立ち上げ、寄付を募っております。本基金へのご寄付は、寄付金控除の優遇措置の対象となります。また、クレジットカード決済にも対応しております。

本プロジェクトへのご理解、ご支援の輪の拡大に向け、今後ともお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

信頼資本財団 「震災復興リーダー基金」

» <http://www.shinrai.or.jp/fukkou-shien/etic2/>

信頼資本財団 +よくあるご質問

信頼資本財団について 融資事業 社会起業家マップ 信頼創出イベント 寄付のお願い お知らせ お問い合わせ

HOME > 東日本大震災復興支援プロジェクト > 震災復興リーダー支援基金(第2期)

東日本大震災 復興支援

共感助成特別プロジェクト

震災復興リーダー支援基金 第2期 (NPO法人ETIC)

ETIC.

法人・団体名 特定非営利活動法人ETIC。(エティック)
住所 〒150-0041 東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階
電話番号 03-5789-2115
URL www.etic.or.jp

寄付金 20,004,000円

[このプロジェクトに寄付をする](#) →

事業概要

東日本大震災の被害が甚大である中、被災地で生活している当事者、またご縁のある人が復興に向けて、事業やプロジェクトを立ち上げていくことは被災地の希望や元気を創るとも深く、重要なことである。しかし、高齢化率25%の東北地域において、多くの事業やプロジェクトの課題は中核を担う人材である。地域のつながりやリソースをもって、事業プロ

連絡先・お問い合わせ先

◆NPO 法人 ETIC.内

震災復興リーダー支援プロジェクト 事務局(担当:山内・辰巳)

東京都渋谷区神南 1-5-7 APPLE OHMIビル 4階

mail : fukkou@etic.or.jp

Web : <http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>